



●裏山の緑と調和した穏やかな外観のY邸。基礎と木材の間に通気が入り、懸念材料だった湿気対策も万全。

安心と健やかさに魅せられて 築150年の家から新築へ

日田市 Y邸

日田市の長閑な自然に囲まれて佇むY邸は、娘さんとご両親のご家族3人住まい。以前の住まいは築150年の歴史ある貴重な家でしたが、時が経つに連れて寒さや湿気や水害などの不安材料に悩まされていたと話す娘さん。ご両親がご高齢なこともあり、思い切って新築を考えたも

の、家の知識も全くない中で、たまたま行ったのが『天領木』の完成見学会でした。天然木の心地よさ、しっかりした作り、美しい漆喰の壁…そのすべてに魅せられたといいます。さらに家づくりの相談に親身になってくれた荒川社長の対応にも感激。

「女性の私にでもわかるように丁寧に説明してくださり、いろんな質問にもクリアに伝えてくださって、本当に信頼できました」と娘さん。家は80代のご両親が暮らしやすいように細部にわたり考慮し設計しま

した。バリアフリーはもちろん、『天領木』の特徴である日田杉をふんだんに使い、壁はほとんどが漆喰に。機能性を重視しながらも、日本家屋の落ち着きと上品さが、ご両親を自然と馴染ませ、和ませてくれたようです。さらに、懸念材料だった湿気や寒さ、裏山の周辺の整備まですべて解決。「住みながらの心地よさはもちろんですが、気持ちの上での安心感が違うんです」と話すように、Yさん達家族を木の家がしっかり見守っているかのようです。



●漆喰に囲まれた座敷はご両親が仕事合間に落ち着く場やゲストルームに。



●和を感じさせる外壁材など素材選びにもセンスが光る。



●玄関は和の趣きを残しながらも広くて明るい雰囲気。



●家族が集う居間は、居心地感に加えてご両親の動線を考慮した。



●南に面して連なるLDK。4連窓に高いデザイン性があり、漆喰壁は洋を意識したフラット仕上げに。



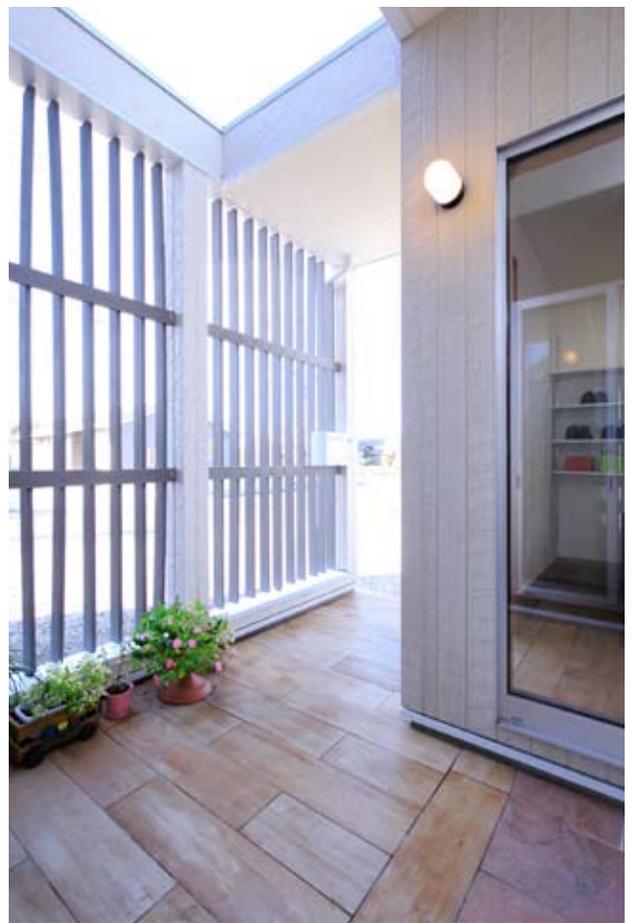
●大分営業所所長 板井 素三



●上・右/風通しと目隠しを考慮した格子により、玄関周りにもプライベート空間を配置。



●片流れ屋根が重なり合う付まいがシャープで存在感を放つ大分営業所の外観。



日田杉の浮づくりと本漆喰 和洋折衷の健康住宅を体感

日田杉と本漆喰の健康住宅を提案する天領木に、大分営業所が誕生しました。和のイメージが強い天領木ですが、「洋風の家が好き」という所長の板井さんが独自のセンスで建てた事務所兼住まいは和洋折衷。

家族3人が暮らす板井邸は、1階に家族の団らんが楽しめるLDK、2階にロフト付の主寝室と子ども部屋を備えています。床は玄関からLDKまで素足に心地よい日田杉浮づくりの床で、リビングドアはチェッカーガラスが可愛らしい既製のドア枠に天領木らしい無塗装の杉板を取り入れています。「杉といっても品質は様々で、日田杉は油分が少ないので色がきれいです。水が良いからか、瑞々しいですね」と艶やかな日田杉浮づくりの床を見ながら話す板井さん。一方、天井の梁には荒々しい風合を持ち力強さを感じる宮崎産の杉を採用。杉の持つ強さと優しさが感じられる空間に仕上がりました。

さらに、壁は海藻から作られた調湿性の高い本漆喰、天井は和紙と珪藻土クロスを採用し、自然素材ならではのクリーンな室内環境が体感できます。また、タイル張りのカウンターが印象的なキッチンやオープンシューズクローク、玄関横のコート他、形の異なるスリット窓を多用するなど工夫を凝らした洋風のデザインが満載です。1階は見学が可能なので、事前連絡のうえ、ぜひ足を運んでみてください。